

ろくおん 通信

発行日：1995年11月15日

No. 77号

発行：盲人福祉文化センター録音製作係

「音声訳」を考える（第30回）

処理を考える（第5回）

ルビの処理



ルビはそのままルビ通りに読むのが当たり前ですが、ここで問題にするのは、ルビとその語句の読みが一致しない場合の処理について考えます。

マニュアルでは、ルビの読みは「原則としてルビを優先して読み、2回目以降はどちらにするかを決めて読む」、或いは「文意によって語句を読みルビを読む」ということになっています。

どのような時にどう処理するかももう少し具体的に考えてみます。

まず、様々なルビをその性質によって大きく分けるとすれば、

1. 著者（出版社）が読者にそう読ませる為に振られたものと、
2. その語句の補足的な意味で付けているもの、

との2つになります。処理としては、1の場合はルビ優先で読みますが、2の場合、語句を優先して読み、あとでルビの方を読む方がわかりやすい場合があります。

1のルビは具体的には、

- ・ 難しい漢字につけられた読み方のルビ
- ・ 日本語でも特殊な読み（方言、業界語、流行語など）のルビ
- ・ 外国の漢字につけられた現地読み（韓国・中国・琉球など）のルビ

2は、

- ・ 日本語につけられた外国語のルビ
- ・ 外国語につけられた日本語のルビ
- ・ 補足、注記などの意味でつけられたルビ

などがあげられます。それぞれによってルビを読むときの処理が少しずつ違ってきます。

ルビの処理としては、以下の方法が考えられるでしょう。

処理1. ルビのみ読む

処理2. ルビを読み語句を読む

処理3. 語句を読みルビを読む

処理4. その文章の区切りで、ルビを補足する

処理5. ルビを読まない

* 2回目以降の処理

処理6. どちらかに決めて読む

処理7. 両方読む (ルビを読み語句を読む、語句を読みルビを読む)

処理8. どちらか一方に決めてもときどき両方読む

ではそれぞれの場合を少し具体例もあげて考えてみます。

1. 漢字につけられた読み方のルビ

- ・一般的に難しい読み方につけられる

【例】 滔々^{とうとう} / 瀟洒^{しょうしや}

処理1: ルビのみ読む。

2. 日本語でも特殊な読み (方言、業界語、流行語など) につけられたルビ

【例】 新宿^{しんじゅく} / 警察^{けいさつ} / 都市^{まち} /

処理1: ルビのみ読む。

処理2: ルビを読みその語句を読む。2回目以降の読み方も決める。

3. 外国の漢字につけられた現地読み (韓国・中国・琉球など) のルビ

【例】 毛遊^{もうあしび} ・ 親方^{ういけかた} ・ 苦力^{クーリー}

処理1: ルビ優先で読み、漢字の説明は必要な時以外にはしない。

注意: 日本読みを言い添えるとかえって話しが混乱することがある。

- * 「毛遊 (モーアシビ=琉球語)」は「けあそび」という日本語ではない。「ウエイカタ」も「オヤカタ」と言い添えると意味が違ってくる。また、中国の「クーリー」も「クリキ」と言い添えると、意味が違ってしまう。

【例】 李承晩^{リスンマン} (* 金大中^{キムデフン} 金日成^{キムイルソン})

処理2：普通は現地読みだけで良いが、日本読みが一般化している時は日本読みも言い添える。

*韓国人は、現在の人の場合は、現地読みで通じるようになってきているので金大中（キムデジュン）、金日成（キムイルソン）などはいい添えなくても通じる。

<普通名詞の場合>

【例】 ◎▼□駅 ◎◎線

処理2：普通名詞に現地読みのルビが付いている場合は、日本読みも言い添える。2回目以降の読み方も考える。◎▼□エキ、とか、◎◎センとか普通名詞の部分を日本読みして補足する。

4. 日本語につけられた外国語のルビ

【例】 詩^{ポエム} /

処理1：ルビのみ読む。

注意：時々付けられたルビは同じでも語句が違う（逆にルビが同じでも語句が違う）場合もあり、ルビだけ（語句だけ）読むと混乱することがある。

【例】 針葉樹林帯^{タイガ} 森

処理2：ルビを読みその語句を読む。2回目以降の読み方も決める。

5. 外国語につけられた日本語のルビ

【例】 shittyな^{クソのよう}

処理3：語句を読みルビを読む。

注意：ルビが前後の言葉にかかる場合はどこまで読むかを考えます。

上の例では、シッティーな・・・という文章なので、読み方としては「shittyな、クソノヨウナ・・・」

6. 補足・注記の意味でつけられたルビ

【例】・・・西郷隆盛⁽¹⁸²⁷⁻¹⁸⁷⁷⁾・・・

処理3：時には、その語句の補足などがルビでされている場合があります。語句を読んだ後に補足的に読む。その場で入れるか区切りで入れるかは文章や補足の内容などで判断する。

【例】・・・曖昧^{まぼ}模糊として・・・ （正しくは→曖昧）

処理4：区切りのよいところまで読んでルビの意味について補足する。

処理5：字の説明をする必要がない場合は省略する。

前回の練習問題のポイント

【例文1】

この問題は、カッコの処理です。「カッコ・・・トジ」と言わなくては
何のことだかわかりません。記号を読むときの読み方はテクニックが必要でし
ょう。他にも、「音声訳者注」として断って、カッコのついた語句の読み方を
断って読む方法もあるかと思えます。

例「音声訳者注、以下カッコのついた語句がいくつかでてきますが、ゆっくり
読んであります。注おわり」と言って、カッコ内の語句を少し強調しながらゆっ
くり読む。

【例2】

ここでは、一つの文章のなかにカッコが4つでてきます。ピッチを下げて読む
だけでは、後半、ギクシャクして少し分かりにくい文章になりそうです。

ここでは、カッコ内はピッチを落とさずによんだ方がわかりやすいでしょう。

【例文3】

アイウエオも、あいうえおも、のところで補足がないとわかりません。カッコ
内は省略した方がわかりやすいでしょう。

例 かのあのアイウエオも、ひらのあいうえおも

【例文4】

カッコが3つありますが、カッコを読み、カッコの前に戻って読む方がよいでし
ょう。2番目の文章をそのまま読むと「・・・適応することができるのでなく・
・・・」といった別の文章に聞こえてしまうでしょう。また、戻る場合は、どこま
で戻るかも慎重に検討しましょう。2番目の場合は、ゆっくりと規則的に変化し
ていくくらいまでもどる方がよいでしょう。こうした文章はカッコを読み込み、
前に戻るてくるカッコも同様です。

【例文5】

カッコを無視すると「・・・椎名氏の書いたものよりつまらなくなれば、当然つ
まらなくなるだろう。アイデアが・・・」となりそうです。

カッコ内の文章をピッチを下げて読むだけでは、印象としては2つの文章に別
れて聞こえるでしょう。

今回の練習問題

【例文1】

★プロ野球が分裂した日

田村は大阪財界人のうちでも、際立った快男児だった。昭和十五年の秋、日本野球連盟は大政翼賛会の主唱する新体制運動に同調し、英語の使用禁止、リーグ戦の名称を公式戦とする、引分けは再試合により勝負をつける、などの事項を決議した。この決定により東京巨人軍はジャイアンツという呼び名をやめた。イーグルスは黒鷲軍、大阪タイガースは阪神軍、東京セネターズも東京翼軍と改称するしまつだった。だが、田村駒治郎のライオンだけは頑として改名に応じなかった。ライオンは英語にあらず、日本語なり、というのがその理由である。

だが、昭和十六年に入ると、堀尾文人、亀田忠など日系二世の選手たちが、アメリカ政府の命令で帰国するという時勢になった。オーナー会議でも、外部の人々からも田村は改名をせまられ、ついに屈して朝日軍を名乗らざるを得なくなった。大陽ロビンスはその後身である。駒治郎と駒島の連想で、ロビンスという愛らしいニックネームが用いられた。当初は太陽だったが「点をとる」の駄洒落で田村が大陽に変えたのである。

【例文2】

★冬の新宿御苑

落羽松らくしゅうしょうは高さ二十八メートル、幹周四、二メートル、杉の仲間です。周りにいっぱい坊主のようなものが生えています。背の高いので約一メートル、低いのは十センチくらいまで、無数に生えています。小人宇宙人がたくさんの子供を連れて遠足、そんな風景です。

湿地に生え、根に空気を取り入れるための「気根」と説明がありました。明治の初めに、外国から移入されたものだそうです。ここも大木が群生し、すっかり落葉したこずえが、青空に伸びていました。秋に短い枝ごと落葉する、という説明ももう一つ不思議な思いがしました。落羽松の名もそんなところから来たのかな、なんて思いました。とにかく不思議な木、不思議な気持ちです。

【例文3】

★自然観 自然観の変遷「じねん」から材料へ

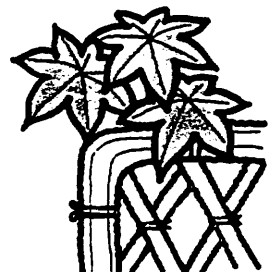
河合—今日は、先生がデカルト—ニュートンのパラダイムを何とかして超えよう

としているところとか、なぜ超えようと思ったのとか、そういうあたりのお考えから話していただけるでしょうか。

丸山—すぐにデカルト、ニュートンにはまいりませんが……。私はフランス文学から入ったものですから、かなり長いこと西洋かぶれで、中学校、高等学校、新制の大学と、西洋ばかり見ておりました。ずっとむこうの歴史やものの考え方をみてましたから、どうもその一番もとに「工作人」と言いますか、道具を作る人間というものが浮かんできましてね。つまり、自然に対する考え方が、どうも私どもの血の中に流れている考え方と少し違うような気がしたんです。たとえば山や林を開拓し自然を加工するという場合、アニミズムのように、もし山に神様がいたり、川に神様がいたら大変なことになります。ある時代からの西洋の考え方では、「自然」は単なる物質、人間がものを作る材料のように考えられたようです。ソクラテス、プラトンあたりから「加工」—少し固い言葉で言うところ「対象化」と申せますでしょうか—、まわりのものに働きかけて、これが人間の素晴らしさだ、というふうな考え方になってきたような気がいたします。

河合先生もお書きになっていますが、自然観そのものが、じねん（自然）ではなくネイチャーなんですね。プラトンより前のギリシャ人の考え方はむしろ日本に近くて「産霊」と申しますか、「葦牙」が燃え上がるように自ずからしかあるように在る」、という考え方があったように思います。ところがある時代から、今申しましたような「工作人」の論理になると、まず大切なのは目や手で、私たちが狭義の動物と共通している耳や味覚というものは、眨められてきたような気がします。自然はギリシャ語で「ピュシス」と言ったそうですが、これはプエスタイというか、「成る」・・・自然に成るという意味ですね。「じねん」なんです。それがラテン語のナトゥーラという概念に変えられた。ソクラテス以後の考え方はネイチャーとしての自然です。そうして自然神が、絶対神、人格神と申しますか、一神教の考え方になった。私は、ギリシャの古典時代から始まる対象化論理をもった形而上学と、実にうまく結びついたのがキリスト教だと思っています。キリスト教は、今申しました人格神で一神教ですね。アウグスティヌスがプラトンの考え方をうまく取り入れて、そしてそのキリスト教が、近代科学のおおもとになっていると私は考えております。

河合—それは、まったく私の考えと一致しますね。



二通りの読みがあって意味が異なるもの・・・(37)

道楽	ドウラク 本職以外の趣味などにふけり楽しむこと ミカク 雅楽で行列に加わりながら笛や太鼓などを演奏すること。	打込	ウチコミ 強くたたき込むこと。人に惚れ込むこと。 ブッコミ ぶっこむこと。ぶっこみ釣りの仕掛け。(無縁仏の) 共同墓地
文書	ブンショ 文字で人の思想をあらわしたもの。かきもの マカキ 手紙を書くこと。	平日	ヘイジツ ふだんの日。へいぜい ヒラビ 漢字の構成部分の名称
家内	カイ 一家の内、または家族自分の妻 ヤチ 竹子の転 同一作業団に属する労働者仲間の意。	人間	ニゲツ 人物。ひと。 ヒトアイ 他人との付き合い。 ヒトマ 人のいないすき。人との間が絶えること

きれいに録音するために(第18回)

ほとんどの人が小さい録音レベル

前回、録音レベルのことを書いた後に、15、6人分のカセットテープの試聴をする機会がありました。実際に活動中の方が多かったのですが、多くの方の録音レベルは小さ過ぎました。この原因は、前回も指摘しました再生音と録音レベルの混同も考えられますが、適切なピークレベルメーターの合わせ方が分かっていない方もあるようでした。「ピークレベルメーターが常時赤いところ(レベル0)届いている状態」ということが理解されていないようです。常時0に届いていると録音レベルが大きすぎるのではと思われるようです。ときどき0に届いている状態が適当なのはVUメーターの場合で、ピークレベルメーターの場合は違います。今まで-10~-20程度で録音していた方が、ピークレベルメーターが常時0に届くくらいに録音したものを聞くと、再生音はかなり大きく聞こえてきます。しかし、これは再生音ですから再生ボリュームつまみで音量を調整すればいいわけです。再生音の大小はボリュームつまみで調整できますが、一旦録音した録音レベルは変えることはできません。ですから最初に適切な録音レベルに録音レベルつまみで調整する必要があります。この作業はそんなに難しいことではなく最初に覚えればすぐに解決する問題です。

リクエスト図書一覧

以下のリストは、読者から音声訳の依頼を受けている本です。
グループの方で引き受けて頂ける方がありましたらご連絡ください。

- 『龍の契り』服部真澄著 <小説>
- 『警視庁草紙 上・下』山田風太郎著 <小説>
- 『幻燈辻馬車 上・下』山田風太郎著 <小説>
- 『算命学中国占星術 第1巻～第9巻』
- 『狂信者』(上・下) ロバート・ランドラム著 <小説>
- 『仏陀再誕』大川隆法著 <宗教>
- 『雷鳴の館』ディーン・R. クーンツ著 <小説>



引き受けて頂いたリクエスト原本	グループ
『句集 雪塊』	テンプライブラリーにしのみや
『夕日色の紅茶』	〃
『プリズンの満月』	〃
『テロリストのパラソル』	みなわ
『綱領路線の今日的発展 上・下』	えくてもあ
『解剖 生理 上』石川県立盲学校理療科	〃
『愛のしくみ』大塚ひかり著<随筆>	〃
『エホバの証人マインドコントロールの実態』	〃
『ソフィーの世界』	〃
『天使の牙』大沢在昌著 <小説>	堺
『マインドコントロールの恐怖』スティーヴン・ハッサン	グループ汝

12月の「勉強会」のご案内

近点協ボランティアの集い

音声訳勉強会

日時：1995年12月13日(水)
 会場：盲人情報文化センター
 午前：講演「視覚障害者の自立と情報」
 武田泰彦(日本ライトハウスリハセン第3生活訓練センター講師)
 午後：分科会 1時30分～3時
 テーマ：家庭録音技術講習
 担当：近点協録音図書製作委員会

講師：恵美三紀子 氏
 内容：ピッチを使った読みの練習
 日時：1995年12月6日(水)
 午前10時00分～12時
 会場：盲人情報文化センター9階ホール
 費用：無料